

日中日本語教育の比較研究 (3)

Japan and China Comparative Studies of Japanese Language Teaching (3)

章 潔、小嶋 栄子

要旨

今日の日本語教育の多様化を受け、様々な学習諸条件の違いに対応でき、効果的なカリキュラムの立案、適切な教材の開発や教授法の選択が行える、実践的な日本語教員の養成を目指すために、本学は中国淮北師範大学と連携し、日本語教育に関する交流活動を行った。従って、本研究は両大学の教員らが日本語関連科目の授業見学、参加や集中講義などの実践を行い、教材作成・教授方法・評価方法などを実習することによって、日中日本語教育を比較することを目的とするものである。

キーワード

日本語教育、翻訳技能、小論文

I. はじめに

2013年10月30日、長崎短期大学国際コミュニケーション学科と中国淮北師範大学日本語学科と学術・教育交流に関する協定をした。協定の第1条（双方は相互尊重、平和互惠、友好協力の原則をもって、次の事項についての実施と発展に努力する。①教員の交流、②学生の交流、③留学生の派遣、④学術資料、刊行物および学術情報の交換。）に基づき、本学の教員2名（国際コミュニケーション学科教授・小嶋栄子、講師・章潔）が淮北師範大学からの要請を受け、2016年11月21日から25日までの1週間にわたって、中国淮北市に赴き、師範大学で集中講義を行った。受講対象者は淮北師範大学の日本語学科の学生167名である。そのうち、3年生は57人（1組29人、2組28人、2014年9月入学）、2年生は55人（1組27人、2組28人、2015年9月入学）、1年生は55人（1組26人、2組29人、2016年9月入学）である。講義内容は、小嶋教授担当の「日本の文学」・「小論文」と章講師担当の「翻訳」・「作文」・「発音と朗読」の5科目となっている。以下の表1・2に本学教員が実施した集中講義のスケジュールを示した。

II. 日中日本語教育の比較

1. 考察①（章）

今回の集中講義において、主に3年生に今世紀における中国の「翻訳論」について紹介したうえで、課題を完成させることによって「翻訳技能」について理解を深める試みをした。近代中国の「翻訳論」は清朝末期の啓蒙思想家である嚴復（1854～1921年）の提唱した「信（偽りのないこと）・達（意を尽くしておくこと）・雅（表現の優雅であること）」に始まる。また、いくつかの課題を学生に出したが、ここでは、俵万智の『サラダ記念日』



写真 集中講義受講生（一部）と記念撮影（2016年11月25日、章撮影）

表1 集中講義時間割（章）

	11月21日（月）	22日（火）	23日（水）	24日（木）	25日（金）
1限 8:00～8:45	作文① 2年2組	翻訳③ 3年2組	翻訳⑤ 3年1組	発音と朗読① 1年1組	作文③ 2年1組
2限 8:55～9:40	作文② 2年2組	翻訳④ 3年2組	翻訳⑥ 3年1組	発音と朗読② 1年1組	作文④ 2年1組
3限 10:00～10:45	翻訳① 3年1組	作文① 2年1組	翻訳⑤ 3年2組	発音と朗読① 1年2組	作文③ 2年2組
4限 10:55～11:40	翻訳② 3年1組	作文② 2年1組	翻訳⑥ 3年2組	発音と朗読② 1年2組	作文④ 2年2組
5限 14:30～15:15		翻訳③ 3年1組		翻訳⑦ 3年1組	
6限 15:25～16:10		翻訳④ 3年1組		翻訳⑧ 3年1組	
7限 16:30～17:15	翻訳① 3年2組			翻訳⑦ 3年2組	
8限 17:25～18:10	翻訳② 3年2組			翻訳⑧ 3年2組	

表2 集中講義時間割 (小嶋)

	11月21日(月)	22日(火)	23日(水)	24日(木)	25日(金)
1限 8:00~8:45		小論文① 2年1組	日本の文学⑤ 3年2組		小論文③ 2年2組
2限 8:55~9:40		小論文② 2年1組	日本の文学⑥ 3年2組		小論文④ 2年2組
3限 10:00~10:45	日本の文学① 3年2組	日本の文学③ 3年2組	日本の文学⑤ 3年1組		小論文③ 2年1組
4限 10:55~11:40	日本の文学② 3年2組	日本の文学④ 3年2組	日本の文学⑥ 3年1組		小論文④ 2年1組
5限 14:30~15:15	日本の文学① 3年1組			日本の文学⑦ 3年2組	
6限 15:25~16:10	日本の文学② 3年1組			日本の文学⑧ 3年2組	
7限 16:30~17:15	小論文① 2年2組	日本の文学③ 3年1組		日本の文学⑦ 3年1組	
8限 17:25~18:10	小論文② 2年2組	日本の文学④ 3年1組		日本の文学⑧ 3年1組	

(河出書房新社) から選んだ短歌2首を例として取りあげる。『サラダ記念日』は俵万智が1987年に発表した歌集であり、刊行前から話題となっており、出版されるや280万部のベストセラーとなった。日本では、新しい現代短歌の先駆けと言っても過言ではなく、後に続く若手の歌人たちに多大な影響を与えた。短歌2首は次のとおりである。この課題は最後の講義の実践・練習の一つ(詩歌・エッセイの訳し方)として出したが、「翻訳技能」のほかの課題については分量の都合上、割愛する。

- ①「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日。
②「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ。

まず学生たちに、課題の短歌2首を読ませ、口頭で訳してもらった。短歌の中の日本語単語はすべてN3、N4レベル相当のものなので、日本語学科3年生にとっては、さほど難しくなかった。しかし、厳復の「信・達」という基準に達したものの、この短歌2首の良さを中国語で表現できず、無味乾燥なものとなってしまった。(学生の中国語の訳文を再度、日本語にしないことをご了承ください。)

- ① 因为你说：“这个味道不错啊。”所以7月6日就定为色拉纪念日。(H.X.Y.)
你说：“味道好极了。”所以7月6日是我们的沙拉纪念日。(R.F.)
7月6日，你说：“色拉真好吃。”于是，那天便成了色拉纪念日。(C.X.Y.)
② “好冷啊。”“嗯，好冷。”(Z.Y.P.)
当我说：“真冷啊。”有回我一句“真冷啊。”的人在就好了。(W.M.)
问好时，我说好冷啊，你也说好冷，我心里就暖烘烘的。(J.J.)

次に学生たちに短歌「サラダ記念日」のエピソードなどを話した。(作品が生まれたきっかけは「鶏の唐揚げ」)

をカレー味に工夫したら、ボーイフレンドに褒められたことなど) この短歌は、料理の味を褒められたことが嬉しくてその日を記念日にしたという、なんでもない出来事でも特別に感じる恋愛の妙味を詠った作品であると解釈した。そして、短歌「寒いね」については、自分の呼びかけに共感してくれて返事してくれる人がいることがあたたかい、それを実際寒い日に、人のぬくもりであたためられた心を詠っている作品と説明した。翻訳をするとき、「寒い時のほうが、いちいち人間味ある行動や心が目に付いたり、心のあたたかさを求めたりする」という作者の意図を考慮したほうがよいと学生たちに指導した。その後、もう一回考えてもらい、ノートに書いて提出させた。その中から、短歌「サラダ記念日」の中国語訳を2作選んで、ここに記す。

※ 只因君一言，七月六日甜。沙拉味虽美，不及妾心美。 (C.H.Y.)

※ 一段关于沙拉你我于七月六日定下的约定 (Z.X.B.)

那年仲夏，第一次尝试为你制作沙拉，带着一丝忐忑，期待着你的回答。

“嗯！超好吃呢！”

夏日的微风拂过面颊，像一个情窦初开的少女第一次收到男孩的情书，

一时竟不知了所措。

“那以后每年的今天都为你制作，好吗？”

“嗯，那我们一言为定！”

微风下两个笑脸成了这个夏天最美的纪念。

学生(C.H.Y.)の訳文は、短歌を中国風の詩歌の形にするだけではなく、「君の一言で、七月六日が『甜』(あまい)となり、サラダも『美』(おいしい)が、『妾』(私・女性)の心がもっと『美』(うれしい)」と大胆に手を加えた。また、学生(Z.X.B.)は、「七月六日に『定下的』(結んだ)『約定』(約束)」をテーマとし、まるでミニドラマのようなストーリー(男子は女子の作ってくれたサラダを「美味」とほめ、女子は男子のために毎年の7月6日にサラダを作る約束した)を創作した。

「信・達・雅」という基準は現代の中国の大学においても広く用いられており、「忠実度・流暢度・言語表現」と言い換える場合もある。しかし、「流暢度・言語表現が忠実であることを裏切る」場合が多い翻訳の実践の中で体験された。これは、以上の2人の学生の訳文からも窺える。しかも、嚴復の言う「雅」は、「古雅」を基調とするものであり、単なる言葉の美ではなく、優雅な格調の高さを追求ものである。学生(C.H.Y.)の訳文は、口頭の発表よりずいぶんよくなったが、嚴復の言う「雅」の域には、まだまだ達していないと思われる。清朝末期から中華民国初期の学者である胡適(1891～1961年)は、「^{フラスコ}翻訳をするときは、責任は三つになる。自分に対する責任、読者に対する責任、原作者に対する責任。」と提唱した。この観点から、学生(Z.X.B.)の訳文は「原作者に対する責任」を果たしたとはいえないであろう。

「翻訳技能」も様々だが、語のロジカルな意義とエモーショナルな意義、語の明示するものと暗示するものすべてを表現できることは理想である。文章の美には、音の響き、意義、意図、語気と文体、形式の美というように、多様な側面がある。これを完全に中国語(外国語)に移しかえることは不可能で、原文とのずれをできるだけ小さくするよう努力しなければならない。上述したことを学生たちにフィードバックしながら、より効果的な授業方法を目指していきたい。

2. 考察②(小嶋)

ここでは中国語を母語とする学習者が、中国語の影響によって起きる誤用を意識し、自己修正できるようになることを目的として、淮北師範大学の学生たちの作文・小論文に見られる誤用の主なタイプを分析し、その誤用を直すための指導を提案することにした。

(1) 教材と方法

<p>小論文の書き方</p> <p>文章を読むために (書く側の気持ちになって) 小嶋 栄子</p>	<p>【課題1】私について</p> <p>(書くことが決まったら、友達や周りの人に話すような感じで、1～2分程度、自分自身を具体的に紹介する。)</p> <p>思い切り心を開いて！</p>	<p>「小論文」の別名は意見文</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あいまい(なんとなく・あれもこれも)」ではなく、「断定」した意見を述べなくてはならない。 意見は、問題に対する解決である。 意見には理由(なぜなら・・・からだ。)を書く 理由を裏付けする具体例を書く 	<p>具体的な例は・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界中でたった一人、自分しか書けない文である。
<p>言葉で自分を見せる</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての自己表現の基本 	<p>本講義の具体的目標</p> <p>フォーマル・タイプの代表的文書 基礎的「小論文」を書けるようになること</p> <p>↓</p> <p>「小論文」とは何か</p> <p>書き方のセオリーを身につけよう</p>	<p>執筆の基本的手順</p> <ol style="list-style-type: none"> まず意見を述べる(2行) 私は〇〇に賛成だ。私は〇〇の方を選ぶ。 その理由を書く(4行) なぜなら・・・だからだ。 理由の具体例や詳しい説明を書く(10行) たとえば……。私が小さい頃……。 結論(4行) 以上のことから、私は……だ。 	<p>意見と理由と・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> 成功するためには「努力」と「才能」とどちらが大事だと思いますか。 <p><努力></p> <p>(意見)私は、やはり努力が大事だと思う。 (理由)人はおそらく10年間努力し続ければ、必ずその道の専門家になれるし、それで十分なのであって、それを成功と呼びたいからである。</p>
<p>レポートと小論文の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート 調査・研究の結果わかった事実とそれに基づく自分の意見をまとめた報告書 →ある程度の時間をかけて作成 小論文 理由をあげて自分の意見を述べる文章 →その場の限られた時間内で作成 	<p>では、「意見」とは...</p> <ul style="list-style-type: none"> 賛否 賛成か反対か? 選択 あっちかこっちか? 予測、改善などの改善策 こうなるだろう。こうした方が良い。 	<p>【課題2】賛成か反対か</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校で一番大切なのは試験の成績だ」という人がいます。あなたは、この意見に賛成ですか。反対ですか。 	<p>推敲時のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 段落を分けているか 文体が統一されているか(「である体」がよい) 一文の長さは適切か(上限は1文80字程度) 主語・述語が呼応しているか 話し言葉(だけど、やっぱーなど)を使っていないか 誤字・脱字はないか あいまいな接続の「が」はないか 他人の文章を自分が書いたように振っていないか

「小論文の書き方」の授業として、2年生対象に合計6時間(日本の授業数で3コマ)の授業を行った。最初に学生たちに小論文の書き方を理解させるため、図(スライドの抜粋)に示したスライドを作成し、それを提示しながら説明をした。説明の手順は以下の通りである。

まず導入の部分で文章を書くことは自己表現の基本であることを理解させるため、「私について」というタイトルで、短く自分のことを友人に語るような文章を書かせた。

次に、小論文とは別名「意見文」と呼ばれることもあり、「自分の意見を書く文章」だということを示し、意見の基本的な3種類のパターンの説明をした。すなわち、意見とは「賛否→賛成か反対か?」「選択→あっちかこっちか?」「予測、改善などの改善策→こうなるだろう。こうした方が良い。」を述べることであり、ということを経験者に理解させた。

さらにその意見により説得力を持たせるために「自分がその意見を持つに至った理由をあげること」を指示した。理由は読者を納得させるための最初的手段である。ここで、「成功するためには『努力』と『才能』とどちらが大事だと思いますか。」という課題で、意見と理由を備えた文章を書かせた。

図：スライドの抜粋

最後に「自分の意見の裏付けとなる具体例をあげる」ことで、自分が示した意見がさらに強固となることを説明した。ここで大切なことは、具体例というと軽く見られがちであるが、この部分こそが重要で「具体例は世界でただ一つ、自分自身にしか書くことができない大切な文章だ」ということを強調した。そして、最終的に「『学校で一番大切なのは試験の成績だ』という人がいます。あなたは、この意見に賛成ですか。反対ですか。」というテーマで小論文を書かせた。

(2) 事例報告

以下に、上に示した簡単な課題からレベルの高い課題へと順を追って学生たちに書かせた作文・小論文を提示する。それぞれの課題で提出された作文の典型的と思われる事例を示し、その中で見られた誤用を分析した(すべて原文のママ)。修正した部分以外にも文法上の間違いはあるが、そのことについてはここでは触れない。

課題 (1) 「私について」というテーマで自分のことを短く表現する。

私は性格のおかげで、ちいさい頃からずっと友達がたくさんいる。毎日一番楽しいのはあさ学校にきた仲間と会うこと。会ったしゅんかん、自然的に顔がわらって言いたい言葉がたくさん出てくる。とてもうれしかった。

今友達がだんだん増えた。いろいろな人と付き合た。彼らとしゃべた時は彼らの人生で作た小説を読んだことを似っている。私はほかの人の世界を見て、自本を見つけて本当に楽しかった。この雰囲気は好きだから、友達を作るのも好きになった。(O.C.)

[1] 清音と濁音の書き間違い

おかげでは「おかげで」、好きからは「好きだから」が正しい記述であり、「カ行・ガ行」「タ行・ダ行」の混同である。この間違いは、語頭よりも語中で起こりやすい。さらに筆者の経験からみると、この間違いは日本語能力レベルの高低にはあまり関係がなく、日本語能力が高くてもいつまでもこのような間違いをおかす学習者がいるかと思えば、比較的初級の学習者でもきちんと使い分ける者もいる。したがって、この間違いが学習者に定着してしまう前に、適切な指導が行われる必要がある。

[2] 促音の脱落および添加

付き合たは「付き合った」、しゃべたは「しゃべった」、作たは「作った」が正しい記述であり、これらは促音の脱落である。中国人は日本語の促音が一拍であることをなかなか理解できない学習者が多い。促音があるのにないと聞き取ってしまい、それがそのまま、このように作文等に表れてしまうからだと思われる。

また、似っているは「似ている」が正しい記述であり、これは促音の添加である。上記の促音の脱落とは逆に促音がないのにあると聞き取ってしまい、それが記述に表れていると考えられる。

促音の脱落も添加も、聞き取り能力が大きく記述の善し悪しに影響しているため、聞き取りと記述の両方同時の指導が必要である。

課題 (2) 次のテーマについて、意見と理由を書く。

「成功するためには『努力』と『才能』とどちらが大事だと思いますか。」

私は、努力が大事だと思う。

人は自分の不足なことを努力しなければ、どんな苦手なことはきっと上手になるだろう。更に、才能があるのに、努力がないので、無駄になってきて、成功しないと思う。

子供の頃、私は歌声がよかったことで、ときどき音楽の先生にほめられていた。それに、私は才能があると思った。楽曲についての練習をしなかった。次の音楽の試合はやはり失敗した。私が悲しかった。両親を見ると、努力も重要だったを慰めた。これから、私は努力し続けている。

これで、私はやはり努力が大事だと思う。(K.K.)

[3] 名詞につく助詞の使用法の誤用

私がは、「私は」とすべきところを「私が」にしてしまった誤りである。中国語には日本語のような助詞がなく、

さらに日本語には主語につく助詞として「は」と「が」があるため、非常に指導の難しいところである。

日本語教育の初歩の段階で「私は～です。」という例文が必ず出てくるが、この時「主語が『私』である場合の助詞は、原則として『は』である」ということを必ず指導しておかなければならない。

そしてその次に「私が」が使われる文は、「私」を強調する文すなわち、「誰が先生ですか？」という質問に対して、「(他でもない) 私が先生です。」というように用いることを指導すると同時に、他の人称代名詞(あなた、彼、彼女)についても同様であることを指導しておく。筆者の経験から、このことによって中国人留学生の大半から「『は』と『が』の違いがだいたいわかった」という授業アンケートでの自由記述がみられるようになった。

初めから「異なる二つの用法」を指導するよりも、「原則を一つ教える」ことの効果の方が大きいという事例である。

課題 (3) 次のテーマについて、意見と理由を書く。

「学校で一番大切なのは試験の成績だ」という人がいます。あなたは、この意見に賛成ですか。反対ですか。」

私は「学校で一番大切なのは試験の成績だ」という言葉に反対です。

成績は学生が学校で習ったものの書面の表現しかない。成績だけでなく、いろいろなところは学生の成長を表現することができる。

中国ではお父さんとお母さんは子の試験の成績に関心する。それで、多くの学生はいつも親と先生からのストレスに耐えている。私たちはだんだん勉強がきらいになる。実は、試験の成績が一番大切ではない。学生たちは学校で楽しく健康に成長してくるのが最も大切だ。私の両親も「成績が一番大切ではない」と思う。それで、私は勉強ほかにいろいろなおもしろいものに触れることができる。(S.R.)

〔4〕中国語の発想をそのまま日本語にもちこんだ誤用

書面は、「文面上の」あるいは「紙の上での」という意味合いで用いたかっただであろう誤りである。関心は、「気にする、気になる」という意味合いで用いたかっただであろう誤りである。これらの誤用は、中国語の意味に相当する日本語の名詞や表現法を学習することで、比較的容易に改善できると思われる。

ところが、お父さんとお母さんとおもしろいものに関しては、文法上の指導だけでは指導しきれない部分が残る。

まず、お父さんとお母さんは「父と母」と表記しなければならない。この時同時に、この表現は口語でありなおかつ日本では「公的な場では用いない」という社会的通念があることも指導しなければならないのである。日本人に対しては、比較的初期の段階(早い時期では小学校で)でこのことについては指導がなされるが、日本語教育の中では日本語の敬語体系指導の中で見落としがちな部分である。さまざまな場面での「お父さん、お母さん」および「父と母」の使い方の違いを指導していく必要がある。

おもしろいものはこのままで用いても何ら問題は生じないが、やはり「興味あるもの」「関心のあるもの」というような表現が適当であろう。日本語の文章では、「漢語を用いた方がフォーマルな印象が強くなる」という暗黙の了解がある。大学生が書く小論文に要求されるのは、ある程度フォーマルな形式を備えたものである。したがって、学生たちには「おもしろい」という和語を使うよりも、日本語での意味をきちんとわきまえた「興味」「関心」という単語を用いた表現ができるように指導することが重要である。

Ⅲ. まとめ

本論において、章は嚴復の提唱した「信・達・雅」という翻訳基準を説明し、学生に課題を完成させることによって「翻訳技能」について理解を深めた。「中日翻訳」は留学生の国籍多様化と日本人学生の中国語の語学力の不足のため、日本の大学ではなかなか開講することができない。今回の集中講義を通して、新しいものを数多く発見することができた。小嶋は中国語を母語とする学習者が、中国語の影響によって起きる誤用を意

識し、自己修正できるようになることを目的として、淮北師範大学の学生たちの作文・小論文に見られる誤用の主なタイプを分析し、その誤用を直すための指導を提案した。これからも、両校間の学術交流を更に強化していく、日中日本語教育の成果を発表していく所存である。

参考文献

- 1) 石黒圭 (2014) 『日本語教師のための実践・作文指導』 くろしお出版。
- 2) 章潔／小嶋栄子／李婷／李欣 (2015) 「日中日本語研究の比較研究 (1)」 『長崎短期大学研究紀要第27号』。
- 3) 章潔／小嶋栄子／李婷 (2016) 「日中日本語研究の比較研究 (2)」 『長崎短期大学研究紀要第28号』。
- 4) 高見沢孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育1』 ASK。